

本編は、本記念誌編集委員会と T T 博物館が企画した<sup>たんざんそすい</sup>淡山疏水に関する「聞き書き」の一部を抜粋したものです。

この「聞き書き」は、兵庫教育大学大学院教授<sup>みなみのたけし</sup>南 埜 猛氏のご指導の下に平成 28（2016）年から行われました。同大学院生及び学部生（石井瑛之氏、小野太郎氏、北野敬寛氏、芝地素直氏、玉脇健太氏、中川貴晋氏、南和樹氏、半田有哉氏、渡邊幸太氏）の皆様に「聞き手」となっていただき、<sup>たんざんそすい</sup>淡山疏水やその地域に関する伝承や体験談などを 14 名の「話し手」から聞き取り、書き留めていただきました。

「聞き書き」一覧表

番 号	話 題	「話し手」居住地等
1	広野地区のこと	三木市志染町広野
2	興治と水	三木市別所町興治
3	呉錦堂池と小東野池	神戸市西区神出町小東野
4	上北古集落の昔と今	神戸市西区神出町宝勢
5	岩岡の農業と水	神戸市西区岩岡町岩岡
6	ポンプ池とパイプライン	神戸市西区岩岡町岩岡
7	岩岡と淡山疏水	神戸市西区竜が岡
8	明石地域の葉たばこ栽培	明石市魚住町清水
9	淡山疏水と広谷池	加古郡稲美町蛸草
10	印南の四ツ塚池	加古郡稲美町印南
11	加古大池	加古郡稲美町加古
12	天満大池の決壊	加古郡稲美町中村
13	淡河町と淡河川疏水	神戸市北区淡河町萩原
14	疏水管理奮闘記	(元淡山土地改良区職員)

## 1 ひろの 広野地区のこと

ひろの  
広野地区は、加東郡の<sup>こんどうぶんぞう</sup>近藤文蔵さんという人が元治元（1864）年に開拓を出願したことに始まっている。最初は四国から来た17軒が入植した。明治時代（1868年～1912年）初期、現在は<sup>みどりがおか</sup>緑が丘や<sup>ひろの</sup>廣野ゴルフ場となっている原野を含めて、元三田の殿様であった<sup>くき</sup>九鬼さんの所有地となりました。<sup>くき</sup>九鬼さんは農家を大事にしてくれ、最終的に土地を無償でいただいた。明治34（1901）年5月に<sup>にこういけ</sup>二号池の下に開拓記念碑が建立されたが、今も我々農家は記念日にはここへ来て、<sup>くき</sup>九鬼さんへのお礼の気持ちを込めて手を合わせています。

地区の子供は<sup>ひろの</sup>広野小学校に通っている。昔は、今の<sup>じゆうがおか</sup>自由が丘団地は山で、その麓に<sup>しじみ</sup>志染小学校の分教場があって、1年生から3年生までそこに通い、4年生からは2時間かけて本校に通った。これでは<sup>あかん</sup>あかん和我々が三木市に働きかけ、昭和56（1981）年に<sup>ひろの</sup>ため池を潰して<sup>ひろの</sup>広野小学校がつけられた。我々は自分たちの小学校という思いが強く、予算が足りない時には寄付するなど、この小学校を支えています。

地区に隣接して<sup>ひろの</sup>廣野ゴルフ場があります。昭和7（1932）年に開場されましたが、元は<sup>くき</sup>九鬼さんの土地であったことから我々とゴルフ場との縁が深く、<sup>ひろの</sup>広野地区に電気を引くときには費用を出してもらいました。現在でも何かにつけ協力していただいています。

地区の水ですが、<sup>やまだがわそすい</sup>稲美町の開拓地と同じく水がなかった。飲料水にも困っていた。大正時代に<sup>やまだがわそすい</sup>山田川疏水が完成して水が来るようになったが、三木市の水道が完備するまでは、<sup>たんざん</sup>飲み水と風呂の水以外はすべて<sup>たんざん</sup>淡山の水を利用させてもらっていました。

今、地区の<sup>いちこういけ にこういけ とおりいけ</sup>ため池は一号池、二号池、通池など六つあるけど、草刈りから改修まで手間と金がかかって大変。また、昔は土地の権利が個人名義で、相続が出たときに土地の権利の保全ができない恐れがあった。で、昭和62（1987）年2月に農事組合法人を設立しました。農機具やライスセンターを持っており、池の管理と農作業を受託しています。

法人組織になっても多額の管理費は必要で、当初は水利組合が持っていた土地を貸したり売ったりして原資を工面した。今では池面を利用した太陽光発電も取り入れるなど、安定した収入の確保に努めており、池の改修をするときには行政の補助金も頂くようにしています。

農事組合では、<sup>ため池</sup>ため池の草刈りも年間に二、三回しています。その内の一回は一斉清掃といって、組合員全員で空き缶を拾い、草を刈って燃やします。最近では、小学校と子供会にお願いして、子供たちと一緒に掃除しています。将来には子供たちが<sup>地域活動</sup>地域活動の中心になることを願っており、そのためには、子供たちに<sup>ため池</sup>ため池のことを知ってもらうことを含め、<sup>地域</sup>地域に関わってもらうことが大切と思っています。



開拓記念碑

## 2 おきはる 興治と水

おきはる 興治は新田開発から今まで 300 年ぐらいたっている。他所に比べて遅うに開けた村。70 戸ほどの村やのに、水利組合が二つ。おきはる おきはる 興治西と興治東と。東のほうにふたまたいけ 二股池があり、西の方にあんいけ 庵池がある。両方とも高い所にある池で、周りから水が入らない。ちょっと減ったら淡山の水を入れてもらう。

昭和 31 年、親父が「お前行ってくれるか」と言うので、私は分からんなりにスコップとつるはしを持って寺池（てらいけ おきはる 興治西にあった池で、現在は廃止されている。）の改修へ行っただです。池の関係者は 25 人程で、改修に出た人は 10 人程度やった。年寄りの人が四角い木に竹の柄がついたのを持って、赤土を何センチか敷いて、水をパッパッと撒いて叩いていた。田植えが目の前になって池が空っぽやったらどうしようもない。4 月の中頃までに工事をやめて水を貯め、稲の収穫が済んだらまた水を抜いて池を空にして改修した。

後から開けた村は、昔はいろいろと水に苦勞していた。おきはる 興治でも、苗作っても雨が降らなんだら全部植えられなかった。とうばんようすい 東播用水ができるまでは淡河川と山田川から水を取ったが、どんどんとは流れて来なかった。おきはる ひろたにがわ 興治の南を流れる広谷川からポンプで水を揚げた。そしたら、下流の権利者が「途中で盗ったら下流に水がない」と怒り、大問題になって新聞にも載った。まあ、それだけ水に苦勞してたということ。

これから先はどうなるのか…。私から百姓をしろとも言わんけど、息子も「儲からんもんは、考えたほうがええ」と言う。減反政策が実施されたり廃止されたりした。今から十年先予想せえ言われても、誰も分からへんで。



あんいけ めっこうさん  
庵池から望む雌岡山

### 3 呉錦堂池と小束野池

小束野は、明治41(1908)年から大正6(1917)年にかけて開拓された集落です。呉錦堂さんが四角の田んぼと農道と大きな池がある画期的なほ場を造った。今では、「きぬむすめ」とか「キヌヒカリ」を作っています。高台で風が強く、「コシヒカリ」なんかは倒れて刈取りに時間がかかるので、倒れないような稲を作っている。池は、大正4(1915)年に完成した呉錦堂池(神戸市西区神出町古神、三木市志染町広野)と昭和5(1930)年、完成した小束野池(神戸市西区神出町小束野)です。

呉錦堂池の水はね、抜いたら合流幹線に入りますでしょ。そして小束野の分水へ来て、そこから淡山疏水の水と呉錦堂池の水を取るといって、小束野は淡山疏水の水と水路を使うといった大きな恩恵を受けているわけですね。

小束野池には、元々は淡山疏水神出支線水路から水が入りますが、今では合流幹線水路からもポンプアップするんです。私の家は近くなもんで、ごみの掃除とかポンプの管理をしました。田植えをした後は、毎日池を見に行きました。朝5時とかに池の樋を抜くと、水が分水所から分かれて各田んぼへ入って行く。大体行き渡ったら樋を閉める。そんな形でやっていた。

東播用水ができてからも干ばつが起きました。疏水に水がないのだからどうしようもない。呑吐ダムには三田市の大川瀬ダムから水が来てたんで、ほんまにないのかなと大川瀬ダムに2回も3回も見に行ったことがありますよ。水は結構減ってました。

反対に水が有り過ぎたこともあった。平成10(1998)年やったかな。台風が毎週来て、雨が続いて池が満水。水を放流する水路が狭く、池の下に新興住宅が五、六軒あったんかな。だから、堤が切れたらどうなるんかと、それが本当に心配でしたね。

私たちは水に苦労したが、今の人は自分の田に勝手に水が入ると思っている。淡山疏水の水路がないと水が来ないことをちゃんと認識してもらいたい。百姓しようと思ったら、水を大事にしないといけない。



呉錦堂

中国出身の貿易商呉錦堂は、明治41(1908)年小束野に133町歩余の土地を購入し、果樹園の造成にとりかかりました。途中、山田川疏水事業の計画を知り、水田開発に計画を変更し、加盟面積99町9反9畝29歩で淡河川山田川普通水利組合に加入し、水路、農道及びため池の整備に着手しました。



#### 4 上北古集落の昔と今

明石藩士の初代須藤重太夫さんが現在の神戸市西区神出町上北古に居を構え、慶安3（1651）年から宝勢と上岩岡の新田開発を始めたが、水に恵まれなかったために開発は難航しました。後に上北古の住民が大鳥喰池を大きくし、田んぼが増え、集落が形成されました。

雌岡山から流れてくる水を繰り返し使って苦労して米を作っていたが、大正時代に山田川疏水と坊主谷池ができたおかげで少しは楽になったようです。

それでもよく干ばつになった。終戦後の干ばつの折には、1町歩あっても半分しか植えない。それであかなんだらその半分。全部作ったら米が出来ん。水がない時、淡山疏水の宮ヶ谷調整池の死水（池底に残る水）をポンプで水路に揚げて各池に割り当てた。昼夜何日とか。チョロチョロの水で、分水のところで夜中ずっと番をし、ごみが詰まらんように掃除した。ほんま苦労したわ。米は1反で4俵か5俵ほどしかとれなかった。今の半分ほど。ニシン肥料を割り当ててもらった。化学肥料がなかったんやね。

東播用水ができて、一年中水が来て青もんが収穫できるようになって、その都度現金収入がある。昔やったら、米を収穫するまで収入がなかった。東播用水から水を入れてもらうのは集落の一番高い場所にある坊主谷池。ポンプを使わなくてもパイプラインで自然に田んぼに水が入るようになり、大変楽になった。また、効率の悪い二つの池を廃止して、市民パークにしており、農産物直売や各種のイベントで賑わっている。これらは全部、水の豊かな東播用水のお陰やね。



みやがだに しすい  
宮ヶ谷池調整池死水ポンプアップ

## 5 <sup>いわおか</sup>岩岡の農業と水

<sup>いわおか</sup>岩岡では、キャベツ、いちじくなどの露地栽培から、トマト、こまつな、ほうれんそう、いちじくの施設栽培など、いろいろ作っている。各農家が自由に作っているが、これも水のおかげで、水がなかったら今の岩岡の農業はないと思います。

私らの若い時の苦労は、やはり水がなかったことが一番だった。<sup>たんざんそすい</sup>淡山疏水からの供給だけでは足りないので、たいがいの池では深井戸を掘った。<sup>こう7ごういけ</sup>甲7号池でも3本掘った。地下は細かな砂や岩盤で、機械が傷むまで掘った所もあったようです。

<sup>とうばんようすい</sup>東播用水が出来てから、水の加減が変わってきた。パイプラインとなり、通常は必要な時に水を使えるようになった。平成6（1994）年頃に大干ばつがあった。その時には、ほ場整備もパイプラインも出来ており、水利委員さんが一切の水の管理をしました。田には1週間に1回しか水を入れないこともありましたが、後日、「干ばつのほうが多くの収穫があった」と水利委員さんが笑って話していました。

一年中必要な時に必要なだけ水を使えるようになっていますが、<sup>とうばんようすい</sup>東播用水から池に供給してもらうのもタダじゃない。一番高い地区の水代は10アール当たり1,500円かな。水代はかかるけど、水は豊富にあるので、農家は文句を言わずに水利費を払っています。



キャベツ畑

## 6 ポンプ池とパイプライン

ポンプ池（6号上池）は一段高い所にあるんです。だから、水は池面に降る雨の水しか入らないんですね。使う水は全部<sup>とうばんようすい</sup>東播用水からポンプで揚水して貯めています。水が自然に流れ込んでくるということはないんです。

ポンプで水を入れっぱなしでしたら池があふれるので、水管理が結構大変です。できるだけ水を貯めておくよう、水位を見ながらスイッチを入れたり切ったりします。また、田んぼにつながっているパイプラインにもポンプがあります。水利委員長さんが、これらのポンプを管理されています。

維持費のために、年会費を集めています。年間10アール当たり4千円です。<sup>とうばんようすい</sup>東播用水の経費は別にかかります。ポンプが1回破損しますと50万円程はかかるんです。破損が酷い場合には100万円程かかります。

ポンプ池では、ポンプを2台使っておりまして、1台は予備でおいてあります。1台が故障したらすぐ切り替えるようにしてあります。ポンプを修理するのは簡単ではないのでね。

パイプラインも設置されて年数がたってきました。老朽化が始まってきている箇所もあり、これから対応が大変だと思います。今は、僅かな水漏れが多いです。僅かしか漏らないと、漏れている箇所を探すのが大変です。掘ったけど水が漏れてない、水が土中を流れているけど漏れている箇所が分からないとか。<sup>とうばんようすい</sup>東播用水土地改良区に水漏れの器具が備わったんで、それを借りて探し出したこともあります。漏水箇所が分かると、地中2メートルぐらいの所にパイプが埋めてありますんで、ショベルカーで掘り起こし、不良部分を切断し、新たに管を接ぎ合わせて埋め戻します。<sup>そろ</sup>部品さえ揃えば二、三日で修理できます。



ポンプ池揚水所（岩岡揚水所<sup>いわおか</sup>）



## 7 岩岡と淡山疏水

岩岡町は江戸時代に盛んとなった新田開発の後発の地です。雨は非常に少なく、高い台地であるため明石川や加古川から引水することができず、かつては日夜水不足に悩んでおりました。

そんな中、明治24(1891)年に稲美町を中心とした淡河川普通水利組合が先進的な淡河川疏水を開削して大成功されました。明治41(1908)年、当地域もこれに加盟して淡河川山田川普通水利組合に改組していただき、明治44(1911)年に山田川疏水工事を開始していただきました。大正4(1915)年3月10日には、岩岡小学校校庭で通水式が大々的に執り行われました。そして岩岡の人たち自らが、ため池の築造と耕地整理事業を行いました。

この大事業の負担金を返済するため、人々は子供の頃から働き手の一員となり、寝るのも惜しんで働かざるを得ませんでした。そんな時、働くばかりではなく楽しみも必要と、岩岡神社の祭りが大いに奨励され盛大になっていきました。これとともに、岩岡は働き甲斐のある活気あふれる町として発展して参りました。

昭和35(1960)年頃、山田川疏水の通水の日である3月10日を農休日と定め、先人たちの苦勞をしのぐべく一日の休養を取るようになりました。これが今日の岩岡開発記念日の起源だと思います。

淡山土地改良区は合併解散となりましたが、淡山疏水を造り守ってきた人たちの意気込みを、東播用水土地改良区が後世につないでいただくようお願いします。



岩岡神社秋祭り



## 8 <sup>あかし</sup>明石地域の葉たばこ栽培

<sup>あかし</sup>明石地域は<sup>いわおか</sup>岩岡支線水路の末端に在り、<sup>おいのくち</sup>支線水路最上流の老ノ口分水所から20キロメートル弱の距離がある。

私らが子供の時分、<sup>たんざんそすい</sup>淡山疏水の水は来ていたけれども長い水路からの漏水が多く、米は作れなかった。それでも<sup>そすい</sup>疏水料は支払わなければならなかった。豆や綿では収入が僅かなので、葉たばこの栽培が盛んだった。それが唯一の収入だった。

葉たばこの栽培は収入が良かったものの手間のかかる重労働で、親二人が栽培と乾燥に大変な苦勞をしていた。私が子供の頃「腹が減ったからなんかくれんかい」って母親に言うと、こんなくらいの飴をくれる。その飴を口に入れるとたばこの苦い味がした。母親も葉たばこの栽培、乾燥をしていたから、その灰汁がいつも指に付いていた。

ようやく乾燥が終わると、親が<sup>いわおか</sup>岩岡の収納所に葉たばこを持って行き、代金をもらい、薪などを買って帰った。

<sup>あかし</sup>明石地域に水がないために、苦勞の多い葉たばこ栽培をしていた。これからの人たちにはこのような苦勞があったことを知ってもらい、水を大事にしてほしい。<sup>たんざんそすい</sup>淡山疏水を活かし、東播磨を豊かにしてほしい。



タバコ栽培

## 9 たんざんそすい ひろたに 淡山疏水と広谷池

加古郡稲美町蛸草は淡山疏水にその創設期から関わっていました。明治11(1878)年に野寺村の魚住完治さんと山田川疏水掘割を県令に嘆願した蛸草新村惣代だった岩本須三郎(後に初代母里村村長)さん、後の村惣代だった松尾要蔵さんや嘉一郎さんなどが活躍されました。須三郎さんは私の親戚筋の人ですが、詳しいことは淡山土地改良区の理事になってから知りました。

明治21(1888)年、山田川疏水掘割は淡河川疏水に変更されて実施となりましたが、私の婆さんから聞いた話では、私の爺さんらも弁当と草鞋を腰にぶら下げて、肩につるはしを担いで溝掘りに毎日行ったそうです。賃金は13銭だったようです。練部屋分水所の上流に真直ぐな合流幹線水路が延びていますが、あのような水路をつるはしで掘ったことに感心しています。

ちょうどその頃、蛸草新村で須三郎さんや嘉一郎さんが提唱し、広谷池を拡張して疏水の水を受け取る計画が立てられました。拡張予定敷地は約10町歩で、そこには道路、村庁舎、墓地などがありました。これらをしてため池を広げた。昨今、ため池を潰していろいろな施設が造られますが、当時の人たちはため池を造るためにはどのような苦勞も厭わなかったのだと思います。

広谷池拡張工事は明治24(1891)年に始まり、明治30(1897)年に完成しています。工事では、嘉一郎さんが中心となられたようです。その流れは現在も続いており、記念碑の台座となっている「亀さん」(玄武?)の首が取れましたが、それは松尾家に保管されています。近々補修されるそうです。

私自身は、兼業農家であり米を作るほど赤字となるので、自家用米だけ作ることにし、営農組合に任せています。それでも若い頃は夜を徹して水番をしたことがあり、水を大切にしています。

地元土地改良区の役員として水管理に関わった時、水を入れっぱなしにしている田が多いと感じました。昨年も中干後に漏水が発生した田に水を入れ続けて水不足になりました。今では営農組合役員が土地改良区役員も兼ねて水を適切に管理していますが、減反政策が終わり自由にコメを作るようになるので、水が足りるか心配しています。



増築記念碑など

## 10 印南の四ツ塚池

私は印南いんなみに生まれ、高等小学校を卒業して家の手伝いをし、兵隊に行き、大東亜戦争が終わってからは造園業をしながら百姓をしてきた。稲美町は温暖で過ごしやすいが水が少なく、新村が開拓された当初はキビ、そば、豆などを作っていたと思う。淡山たんざんの水が来て、ため池を造ってから水稻ができるようになった。私の家はこの地で6代目となるが、これまで農業を続けられたのは淡山疏水たんざんそすいのお陰です。印南だけではなく、淡山疏水は稲美町の発展に重要な役割を果たしたと思う。

淡山疏水たんざんそすいがあったものの、私が百姓を始めてからも水不足の年は多くあった。淡河川おうごがわからの取水条件で水源地域で水を使うときは取水できないので、雨がないと池が満水でも足らず、ほとんどの年が半分の植え付けだった。干ばつとなれば、3分の1の植え付けだった。雨が降ったら夜でも鍬をもって出かけ、池に水を入れた。時には喧嘩しながら水を取った。今では東播用水とうばんようすいができて自由に水が使えるようになり、非常にうれしい。

記憶にある最も酷い干ばつは、小学校3、4年ごろにあった。あと1か月で穂が出る時期、稲が膝の下まで育ったところから水がなかった。父親が姫路まで行って、発動機とポンプを買い、溝から水を汲み上げ、なんとか飯米だけはとれた。水を確保できず、米をとれなかった家がたくさんあった。

私の田は四ツ塚池よつづか池掛り。この池は淡河川疏水おうごがわそすいの水を受けるために明治時代に造られた池で、私が百姓を始めてから最初の改修は、昭和25(1950)年でした。当時は機械がなく、トロッコで土を運んだがそれ以外は手仕事で、村総出の工事でした。コンクリートもなく、土を盛り固めるだけで、10年すればやり直しだった。工事の補助金をもらったが残りは農家負担で大変だった。今でも補助金がないければ農家はやっていけないと思う。

水利長を務めたが、百姓は生活で精一杯で時間的余裕もなく、町役場からの助言や指導がなかったら務まらなかったと思う。水の使用については平等かつ有効に使わないと問題となるが、特に干ばつ時の対応が大変だった。井戸、川、堀から水を調達した。金は高くついたが仕方がなかった。また、池に残った最後の水をどう使うかという問題もあった。最後の水を入札により分配したこともあった。

水も豊かになり、営農の機械化が進み、トラクターの自動運転ができる時代となった。自由に稲作転換ができれば農業を継ぐ若い人も現われると思う。手軽に暗渠排水ができればよい。私の村でも営農組合を設立すれば良いのかもしれない。



改修工事竣工記念碑



## 11 加古大池

万治元（1658）年に加古新田の開發が始まり、加古大池は寛文元（1661）年に完成しました。新田は400町余りあったんですが、淡山に参加したのが89町。加古大溝からの水があったのと、ちょっとお金が足らんいうことで。参加費用がかかりますんでね。

加古大池はね、当初は五つの池に分かれておりまして、昭和16（1941）年から昭和24（1949）年にかけての大改修で、その五つの池を統合したんです。その時から県下最大の農業用ため池です。

昭和63（1988）年から防災ダム事業が始まり、平成12（2000）年に完成しました。せっかく親水性や生態系に配慮した立派な加古大池になったので、もっと活用してもらおうと思い、子供たちに絵を描いてもらうような活動をやってきました。今後は、加古大池の子池で「かいぼり※」をやろうかと思っています。

平成6（1994）年の大干ばつは加古地域全部が影響を受けた。6月からほとんど雨が降らなくてね。当時の役員は毎日のように水番に出た。普段は樋門は開けたままだけど、その時は下流から順番に田んぼに水を張るように樋門開閉をコントロールした。そのため土が乾いて真っ白になる田んぼはなかった。しかし全部は植えられず、分植えをしたんです。

昔は池守がおりましてね、親池の加古大池から子池に水を入れて、子池から出た水を次の孫池に入れ、各田に配る。そういうふうには水を大事にした。今は、各田で栓を開ければ水がいくらでも出る。その水代は加古土地改良区が肩代わりしており、自分で水代を払っている感覚がない。このようなことで、水を粗末にするのだらうと思っています。

かいぼり※：冬にため池から水を抜き、清掃、点検補修を行う作業で、コイ、フナなどを獲ることもあります。かつては多くのため池で実施されていました。



加古大池

## 12 天満大池の決壊

天満大池は県下最古のため池とされている。淡山疏水に加盟しているが、稲美町の下流部にあり、上流の水田の水が流れ込み、比較的水に恵まれていた。

しかし、これが災いした。昭和 20 (1945) 年 10 月 9 日、雨からの大災害ですわ。天満大池の東方にある長法池が決壊し、氾濫した水が天満大池に流れ込んだ。まともに水を受け、天満大池と隣接の河原山池が決壊して、国道 2 号線まで被害が及んだ。長法池の方は家はあまりなく、収穫も終わっている時なので大きな被害はなかった。

特に被害に遭ったのは、天満大池の南側を西に向って流れる喜瀬川の流域。国道 2 号線が堰になって滞水し、米軍が救助にやってきた。人間は助けられたが、天井が低い小屋に水が入り多くの牛が溺れ死んだ。当時、牛は土を耕す動力源であり、農家にとっては大きな被害だった。

天満大池の中に大きな島がある。島につるはしを持って行って、土を掘って、それを堤の切れた箇所を持って行き、15 人ぐらいで胴木を引き上げては落として土を締め固めた。池に関係する六分一、森安、中村、向の人が復旧した。復旧には 1 年もかかってない。重機もなく、自分たちの力でやった。



天満大池

### 13 おうごちょう おうごがわそすい 淡河町と淡河川疏水

おうごちょう おうごがわ  
淡河町を淡河川幹線水路が通過していますが、私の小さい時分、昭和 24（1949）年頃から三面張りの工事（昭和の大改修）をされたんだと思います。工事用の線路をトロッコが走ってまして、土木作業ですから手押しのトロッコですけどね。そのトロッコに悪さして、乗って走っとった。そんな思い出があります。

きづ どうしゅこう  
木津の頭首工から少し下流部にトンネル部分があるんです。長さは 30m 位あるのかな。水流れとんやけども、流れへん時もありますやんか。そんな時に探検に入り、そん中で遊んだこともありました。それとね、どろだめ泥溜に入って、泥上げしたり魚とったりしたという思い出もあります。

「洗い場」と言いますが、三面張りの水路に階段を作ってもらい、水位に応じて降りたところから、竹で向こうの岸へ人を渡すようにしてですね、そこで芋を洗ったり大根洗ったり、場合によったら洗濯物のゆすぎをしたりしました。

洗い場の所々に 30cm 程マスを掘り下げてもらいまして、そこへ水が寄ってきて、消防用水を吸い上げる、そういう箇所が今でも残ってます。たんざん淡山土地改良区さんの御理解があり、地域のために作られたものです。

それからつい最近では、農地・水保全向上対策事業を実施し、幹線水路に沿った歩道を舗装したり、草刈りをしたりしています。特に淡河小学校の近くは美化され、子供も喜んでます。

水はやっぱり農業の命であり地域の宝ですね。これを末永く活用できるように施設の補修や維持管理をしていかねばなりません。たんざん淡山のように、おうごちょう淡河町においても、先を見てどうしておこかというのを皆で考えると風土を醸成したいと思います。



おうごちょうはぎわら  
淡河町萩原を通る淡河川幹線水路



## 14 疏水管理奮闘記

私が淡山土地改良区に就職した昭和 35（1960）年には、現場の職員が 10 人いて疏水の管理をしていました。淡河川と山田川の頭首工に 1 人ずつの 2 人、広野と岩岡の揚水所にもまた 2 人。残る 6 人は水路を回り、分水所の堰板操作、草刈り、水路に溜まったごみの引き上げなどをしていました。草刈りは 1 年に 1 回。今みたいに草刈機がないので鎌などでやりました。ごみは、水路に打ってある杭の前に溜まったものを引き上げました。

疏水の幹線水路は整備しているが、支線水路は土水路でした。昭和 40（1965）年代からため池の転用が多くなって売却費が入り、土水路の改良工事ができるようになりました。借入金利が貯金の金利より低い時期もあり、借入金によりどんどん工事が進められました。

今は天気予報が正確ですけど、昔はそうではなかった。また、取水や分水のゲート操作も手動であり、開閉に時間がかかり細かな操作が困難でした。大きな雨と思い取水ゲートを閉めると雨が少なく、組合員から水が来ないと叱られました。また、急に雨が大きくなり、取水ゲートを閉めるのが遅くなって水路があふれ、地域の人から怒られたこともありました。

晴天が続いて干ばつになると、池間で疏水の水をめぐって水争いが起こりました。このような時には、山田池の水を流すため夜中でも樋門を開けに行きました。

今は遠隔監視や遠隔操作などが導入されて、水管理が楽になったと思いますが、細かな操作により各地域の営農形態に対応してほしいと思います。

それと、苦勞して水を管理して農業を続けてきたことを、子供たちに伝え続けてほしいと願います。



ため池を流入する用水